

# 北海道手をつなぐ育成会 げっぼう

登別市手をつなぐ育成会 設立50周年記念事業

## 50年の絆、その先へ ——ともに描く、私たちの街

### 【はじめに】半世紀の歩みが灯した希望

昭和、平成、そして令和。時代を歩み続け、登別市手をつなぐ育成会は50周年という大きな節目を迎えました。去る3月1日(日)、会場には会員、他市町村育成会の仲間や行政・福祉関係者、そして地域を支える市民の皆様など、約130名が登別市民会館に詰めかけました。

会場を包んでいたのは、単なる祝祭の華やかさだけではありません。知的障がいのある方々とその家族が、地域の中で当たり前に、自分らしく生きていくための環境を切り拓いてきた50年間の「思い」と「不屈の努力」が結実した熱気でした。130人の拍手が共鳴する中、登別市手をつなぐ育成会が、昭和50年に12名の障がい児の親たちが集まって始めた時代を改めて振り返ると同時に、新たな半世紀への挑戦に第一歩を力強く踏み出しました。

### 【第1部】人生の節目を祝う「激励会」

式典では、登別市手をつなぐ育成会 東田美智子会長より「50年の振り返りとこれからの」という内容で挨拶があった後、登別市長 小笠原春一様をはじめ、来賓として御臨席いただいた登別市議会議長や登別市社会福祉協議会会

長に心温まる祝辞をいただき、記念の式典が催されました。最も感動的な場面は、今春に高校を卒業した当事者の方々を祝う「激励会」です。育成会にとって、子どもたちの成長は何よりの宝であり、活動の原動力そのものです。

名前を呼ばれ、緊張した面持ちながらも堂々と胸を張って登壇する卒業生の姿。そして、彼を支えてきた保護者や学び舎でお世話になった先生方の眼差しには、これまでの苦勞を分かち合ってきた者同士にしか分からない、深い愛情と誇りが滲んでいました。

会場全体から送られた惜しみない拍手は、彼らの前途を照らす力強いエールとなりました。この日の祝福は一生の心の支えとなるに違いありません。

### 【第2部】アンダンテ記念コンサート

式典の静かな感動を、一気に爆発的なエネルギーへと変えたのが、元養護学校の先生のデュオグループ「アンダンテ」によるコンサートでした。



当初は客席でリズムを取っていた当事者の皆さんが、軽快なメロディに誘われるように、一人、また一人と自然に舞台へ上がり始めます。気が付けば、ステージの上は演奏者と当事者の皆さんが入り乱れる、ダンスホールへと変わっていました。

客席で見守る人々からも自然と手拍子が沸き起り、会場全体が大きな一つになって拍動する光景。音楽の持つ力が、言葉を超えて人々の心をつなぐ結びつけた、象徴的な時間となりました。

### 【第3部】記念講演「共に働き、共に生きる」名寄心と手をつなぐ育成会

名寄心と手をつなぐ育成会の皆様による記念講演がはじまりました。

事務局長の長谷川まゆみさんから名寄育成会との出会いから、これまで障がいを持つ仲間を応援してきた思いが語られました。働く喜びと自活を促し、地域での生活を支える活動を主体とした取組みからは、原点が「親が子を想う気持ち」であり、「障がいがあっても

(2面に続く)



地域で安心して暮らせるまちづくり」を、温かい目線で大きな包容力をもって実践されている様子が伝わりました。

続いて具体的な事業について事務局の岩崎甚一郎さんから説明をしていただきました。

スライドに映し出されたのは目を見張るほど生き生きと「働く」当事者の方々です。働く喜びを学び、地域で生きる力を培う姿がそこにありました。喫茶店やリサイクルショップを経営し、市のゴミ袋の仕事を請け負い、「自ら社会参加して自活をする」事業展開が広がっていました。

そして誇りを持って生きる当事者の皆様から経談です。彼らの口から語らる言葉は、決して綺麗事ではありません。実体験に基づいた一言一言は、どんな専門家の理論よりも重く、そして優しく参加者の心に染み入りました。客席では、深く頷く人、そっと涙を拭く人の姿が多く見られました。「障がい者」という枠組みではなく、一人の「人間」としての尊厳と意志。当たり前前だが、忘れがちなことを再確認させてくれたこの講演は、私たち支援側や地域社会がどうあるべきかを厳かに問い直す、慈愛に満ちたひとときとなりました。

当日の熱気と感動、そして再確認された地域の絆は、来る9月に開催される「全道大会」に向けた絶好の弾みとなりました。今回の記念事業にご協力いただいた全ての皆さんに心



から感謝を捧げます。誰もが自分らしく、当たり前前に輝ける登別を目指して、また新しい一步を踏み出します。

(登別市手をつなぐ育成会 事務局長 山田 大樹)

## 条例を追い風に

「千歳市屋内型」子どもの遊び場に関する要望書を提出(自閉症協会・千歳市育成会)

「行きたいのに行けない場所がある」——そんな経験をされたことはないでしょうか。

私自身、聴覚過敏のある子との暮らしの中で、環境の刺激によって居場所が失われていく現実を幾度も経験してきました。大好きだった場所が、成長とともに「耐えがたい刺激」の場へと変わり、足が遠のいていく。社会との接点の一つずつ断たれていくような感覚は、言葉にできない寂しさを伴うものでした。

令和9年4月、千歳市の商業施設内に開設予定の「屋内型こどもの遊び場」は、子どもたちの交流拠点として大きな期待を集めています。しかし、にぎやかな音や光、混雑といった環境は、感覚特性のある子にとって大きな壁となる懸念があります。

こうした現状は、子どもたちの特性だけの問題ではありません。受け入れ側の環境や周囲の無理解といった「社会的障壁(ソーシャ



要望書懇談の様子

ル・バリア)が、子どもたちの行く手を阻んでいるのです。すべての子どもが安心して過ごせる場とするためには、昨年施行された「千歳市多様なコミュニケーションの利用の促進に関する条例」が掲げる「互いの個性を尊重し合い、安心して暮らせる地域社会」という理念を、今こそ具体的な形にしなければなりません。

そこで、北海道自閉症協会千歳市・恵庭市有志の会と、千歳市手をつなぐ育成会の連名で、市に対し環境整備と運営に関する要望書を提出しました。懇談の際には、自閉スペクトラム症の子どもが強い不安からパニックを起こす様子を伝える動画も見ていただきました。対応してくださった市職員の方々は、動画の中の子どもの苦しそうな姿を真つ直ぐに見つめ、私たちの切実な声の一つひとつ深く領きながら、真摯に耳を傾けてくださいました。その姿勢からは「誰一人取り残さない遊び場を共に作りたい」という温かい熱意が伝わってきました。



千歳市子ども福祉部長を囲んで(左から、日浦・樋口・青木・浅井部長)

今回の要望では、この障壁を取り除くための三つの柱(クワイエットアワーの設定、カームダウンスペースの設置、障害理解研修の実施など)を提案しました。特に重要なのは、ハード面だけでなく「理解する」というソフト面での配慮です。

(3面に続く)

千歳市では今年度から、障害を知り、寄り添う心を持つ「あいサポート運動」の取り組みが始まります。市の自立支援協議会やパブリックコメント等を通じ、その必要性を訴え続けてきただけに、実現を大変嬉しく感じています。私も「あいサポートメッセンジャー」として、この運動の普及に協力していく予定ですが、施設スタッフが研修を通じて特性を理解し、適切に見守る体制が整うことは、当事者家族にとって何よりの安心材料となります。

「特性を理解する」、「適切な支援をする」、「ありのままを受容する」。価値観をアップデートし、まずは遊び場の運営に息づかせ、やがて街全体の「当たり前」へと広げていく。この「条例を追い風に」、障害の有無にかかわらず、誰もが「また明日も行きたいね」と笑い合えるインクルーシブな遊び場の実現を、心から願っています。

(北海道自閉症協会)

千歳市・恵庭市有志の会代表 日浦 祐子

千歳市手をつなぐ育成会会員

## 報告 第1回理事会開催

4月20日(月)、第1回理事会がかでる2・7で開催されました。会場・オンライン合わせて理事20名、監事2名が出席しました。冒頭、佐藤会長から次のようにあいさつがありました。



「イランとアメリカ、ロシアとウクライナの戦争が今も続いている。イランとアメリカ

の戦争では、すでに千人以上が死んでおり、また多くの障がい者を生んでいる。障がい者に関わって生きてきた人間として、戦争の持つ意味をじっくり考えていく必要があると思う。目の前には、物価高や事業所経営など、大変なことがあると思うが、これらに対応しつつも、やはり根本的なことに目を向けていかなければならない時代に入ったと思っている。また、少子高齢化の中で会員が減少し、地方が疲弊してきているということが大きな問題になっている。ほとんど公共的なものが失われて来ているということについては、やはりじっくり目を向けていきたいと思っている。」

その後、次の議題を審議、決定しました。

- ① 2026年度補正予算
- ② 2026年度定時総会議案
- ③ 三役の職務執行状況

また、大垣理事より、「入所施設の中には、地域での生活に移行することについて、『家族は望んでいない』と言っているところがあり、本人の意思が尊重されていない。また意思決定支援が十分でない。育成会が『本人の意向確認をしっかり行ってもらいたい』という、親の立場からいい意味での監視機能を果たしてほしい」との意見が出されました。

さらに、服部理事から、「育成会は、特別支援学校が足りないということ、運動をして作ってきているが、国連の勧告では、インクルーシブ教育への転換を強く求めている。育成会としてどのように考えているのか」との質問がありました。藤田事務局長から「障が

いがあっても同じ場で学べる環境を早急に整備すべきだが、現状の通常教育では、カリキュラムや教員等の体制の課題があり、適切なサポートのもとで教育を受けられない環境だ。そのような現状では、特別支援学校等の劣悪な教育条件を改善させる必要がある。それと並行して、インクルーシブ教育ができる環境を作り、早急に移行できるように求めていくべきだ」、佐藤会長から「インクルーシブ教育を進めるための議論を進める必要がある。特別支援学級や特別支援学校が果たしている役割も大きいという考えもあるが、本来どうあるべきかという議論を本格的に起こし、育成会としてどのように運動を作っていくのかということを考えていくべきだ」と発言がありました。



道育成会理事会終了後、道生活サポート協会の理事会が引き続き開催され、2026年度定期総会の議案が審議・決定されました。

## 7月の予定

- 1日(水) 会長表彰者選考委員会
- 7日(火) 第1回広報・企画専門委員会
- 26日(日) 「津久井やまゆり園」集会

(北風の会・札幌みんなの会・

ピープルファースト北海道共催)

# 障害のある方向け 総合保険



あ！それうちかも思った方！

## 入通院の悩み

- ・突然の病気やケガが心配
- ・入院時の出費に備えたい
- ・障害があっても入れる保険を探している

## 賠償の悩み

- ・パニックになって他の人にケガをさせてしまったらどうしよう
- ・デイサービスでヘルパーさんのメガネを壊してしまった

## 相談しにくい悩み

- ・虐待や差別を受けた
- ・詐欺に遭わないか心配

### ぜんちの あんしん保険 障害のある方とそご家族へ

- ・病気とケガにしっかり備える
- ・告知や障害者手帳は不要
- ・入院日額最高1万円
- ・権利擁護費用補償
- ・総合生活保険（個人賠償責任補償）で賠償責任を補償（国内は東京海上日動の示談交渉サービス付き）

### ぜんちの こども傷害保険 特別支援教育を必要とされている方へ

- ・特別支援教育を必要とされているお子様に
- ・ケガによる入通院を日額保障
- ・権利擁護費用補償
- ・総合生活保険（個人賠償責任補償）で賠償責任を補償（国内は東京海上日動の示談交渉サービス付き）

詳しい資料のご請求・お問い合わせはこちら

25TX-004122 (2025年11月作成) Z012-2510R00

取扱代理店（資料請求・その他お問い合わせ）

**ぜんち共済株式会社** 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-5  
関東財務局長（少額短期保険）第14号 九段北325ビル4階  
平日9時～17時  
土日・祝日・年末年始を除く  
URL: <https://www.z-kyosai.com/>

**0120-322-150**

※このご案内は、保険の概要についてご紹介したものです。契約にあたっては「ご契約に際しての重要事項」「約款」「東京海上日動の「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合は、ぜんち共済株式会社までお問い合わせください。補償を受けられる方またはその家族が、補償内容が同様の保険契約を他にご契約されているときには、補償が重複することがあります。

**060-0032**  
北海道札幌市中央区北2条東3丁目2番地  
札幌セントラルビル2階  
有限会社オフィスブレイン  
TEL: 011-207-2522 FAX: 011-207-2523

## 知的障がい児者・発達障がい児者（自閉症児者を含む）の 生サポは 家族の安心を支えます

- 日常生活に関する相談支援
  - 就労に関する相談支援
  - 権利擁護に関する相談支援
- の3事業を実施しています。

当会にご入会いただくと、  
知的障がい児者、発達障がい児者（自閉症児者を含む）のための  
病気やケガの総合補償制度をご利用いただけます。

生活サポート総合補償制度は…  
全国で約17万人※のみなさまにご利用いただいている補償制度です。

※2025年11月時点

AIG損保の普通傷害保険

### 生活サポート総合補償制度

特定障害者福祉団体傷害保険特約、弁護士費用等補償特約、  
職業従事者事故対応費用補償特約、地震・噴火・津波危険補償特約セット

保険のお問合せはこちら

ご入会のお問合せはこちら

■担当代理店・扱者

**株式会社 ジェイアイシー 北海道支店**  
〒060-0042 札幌市中央区大通西13丁目4番地102  
レジディア大通公園2F  
TEL: 011-221-7009 FAX: 011-221-1704  
受付時間: 午前9時～午後5時  
(土・日・祝日・年末年始を除く)

■引受保険会社

**AIG損害保険株式会社**  
<https://www.aig.co.jp/sonpo>  
**札幌支店**  
〒060-0003 札幌市中央区北三条西4-1-1 日本生命札幌ビル17F  
TEL: 011-204-7510  
受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

北海道知的障害児者生活サポート協会

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かのる2・7 4階  
北海道手をつなぐ育成会内  
TEL: 011-251-0855 FAX: 011-251-0804  
受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

2026年1月現在の内容です。(D-008145 2026-12)

## 『どんな障がいがあっても、地域で普通に暮らしたい』

障がい者の願いを実現することが事業所協議会の  
目的です。私たちは、『経営』と『志』の統一を  
目指しています。体力のある事業所も体力のない  
事業所も助け合います。あなたの事業所の入会を  
待っています。

### 北海道手をつなぐ育成会 事業所協議会

〒060-0002  
札幌市中央区北2条西7丁目 かのる2・7(4F)  
電話(011)251-0855/FAX(011)251-0804  
E-mail: [doikusei@air.ocn.ne.jp](mailto:doikusei@air.ocn.ne.jp)

## ★会員事業所紹介★

### 社会福祉法人 柏の里めむろ 障がい福祉サービス事業所 オークル

〒082-0003 河西郡芽室町西士狩北4線48番地2号  
TEL (0155)62-5449 FAX (0155)62-7449  
e-mail: [athome@orion.ocn.ne.jp](mailto:athome@orion.ocn.ne.jp) HP: [o-kuru.sakura.ne.jp](http://o-kuru.sakura.ne.jp)

★就労継続B型 定員16名 ★生活介護 定員18名

#### ★主な作業

- ☆ゴミ袋印刷、アットホームパン工房・リスどんの運営（パン・焼き菓子）
- ☆EMボカシの製造、廃油固形せっけんの製造
- ☆委託作業（発達支援センターの清掃、環境整備、給食センター食缶洗い、野菜袋詰め、じゃがいもの選別作業、かぼちゃ収穫作業、他）

※「自立と社会参加の支援」「主体性自己決定の支援」「地域生活における生活の支援と自己決定の支援」「利用者の権利保障と擁護」を法人理念に利用者日々向き合っています！



オークルFacebook



リスどんインスタ